

C F T ニュース & 息抜き（9月）

全日本コーヒー公正取引協議会（コーヒー公取協）に寄せられた問い合わせなどを、トピック形式で毎月リリースします。参考になれば幸いです。

1. 2024年8月の気になる問合せ

（1）新聞に定期的に広告宣伝している F コーヒーはコーヒー公取協として問題ないか。また、コーヒー公取協会員社であればアウトか。

⇒ コーヒー公取協は会員組織であり、非会員社の製品については、著しい問題ない限り関与できません。

当該コーヒーは消費者庁の特定保健用食品（根拠法：食品表示法、健康増進法）の認定を受けており、疑問に思う場合は、御社が疑問点を科学的に整理し、消費者庁の判断を待つべき性格のものです。特定保健用食品と機能性表示食品とは違います。

コーヒー公取協会員社であれば、当該コーヒーはデキストリンを添加物と使用しているため、コーヒー公正競争規約で定義するレギュラーコーヒーとなりません。本製品はレギュラーコーヒー名称で販売していないと思うので、会員社であってもなくても問題になりません。

（2）ドリップバッグを委託製造し通販で販売している。コーヒー粉にカカオニブやオレンジピールなどを1割程度ミックスした製品を考えている。表示について悩んでおり、カカオニブを加えたレギュラーコーヒーは「レギュラーコーヒーカカオニブ入り」とする考えだが、コーヒー以外のものを加えたコーヒー名称はどうすればよいか悩んでいる。大手の関与しない製品販売を考えているが表示に不安がある。どのように表示すべきか教えて欲しい。また、当方のような個人事業者はコーヒー公取協に加盟しているか。

⇒ コーヒー公正競争規約はレギュラーコーヒーやインスタントコーヒーの名称を使用する場合は、コーヒー100%原則でコーヒー以外の物の

使用は認めていません。

コーヒー公取協会員社は香料を使用した場合は、フレーバーコーヒーとかコーヒー調整品などとし、原材料を「コーヒー、香料」と記載している例が多いと考えます。いずれにしても食品表示基準に抵触しないよう使用原材料を記載してください。コーヒー以外の物を1割、2割加えてレギュラーコーヒー名称を使用すると、食品表示法上は問題なくとも消費者から味への疑問が出る可能性も否定できないので、原材料表記は的確に行ってください。

全日本コーヒー公正取引協議会には個人事業者が加盟していませんが、否定するものではありません。会員社となればコーヒー公正マークの包材への貼付が可能となり、製品の信頼度が増すと考えます。

2. コーヒーを巡るいろんな状況

コーヒーの国際価格の上昇が著しい。旱魃などによるブラジルのアラビカ種コーヒーの生産不振予測の影響からニューヨーク相場は13年ぶりの高値にある。ヴェトナムのカネフォラ種ロブスタの生産減が恒常化しつつあることも国際相場高騰の大きな要因でないかとCFT子は思う。ロブスタはインドネシアも大きな産地だが、カルバリル問題が起きた時の現地調査でコーヒー栽培は他の農産物に比べ収益性が低いのでパパイヤやマンゴーなどの収益性の高い果樹に転換したいとしていた。コーヒーはピッキングコストも問題とのことであった。

ヴェトナムでビジネスを行うCFT子の知人は、ヴェトナムは工業発展で労働者が不足し賃金が上昇、コーヒー収穫の労働者確保は容易でないのではと話していたことを思い出す。異常気象の影響はあろうが、ロブスタ生産量は2021/22年度の3,048万袋(60kg詰)、22/23年度2,730万袋、23/24年度2,800万袋、24/25年度2,785万袋(以上のデータは米国農務省)と停滞傾向とみるよりは減少傾向とみてよいのでないだろうか。

コーヒーは農産物であるから気象状況の影響を大きく受けるが、当該国の経済発展や農業政策の影響も無視できないものがある。ヴェトナムロブスタの供給減は同国のコーヒー価格を上昇させ需要国を悩ませることとなった。

コーヒー公取協にはロブスタ不足を因とする問い合わせが増えている。これにはブラジルのコニロン供給増やブラジルレアルの影響もあろう。

日本はコーヒー消費の100%を輸入に依存しているとみてよい。国際コーヒー機関の調べによると、コーヒー生豆の輸入CIF価格(年の3月時点:ポンド当たりUSセント)は、2019年119.3、2020年118.9、2021年127.4、2022

年 176.1、2023 年 173.9、2024 年 180.3 とほぼ一貫して上昇傾向にあるほか、円安傾向であるから円ベースの輸入価格は推して知るべしである。

それではローストコーヒーの市販価格（年の 12 月時点：ポンド当たり US セント）はどうかというと、同じ国際コーヒー機関の調べでは 2019 年 565.15、2020 年 554.50、2021 年 610.83、2022 年 589.51、2023 年 545.47 と推移しており、ドルベースであるので、円価にするには換算する必要がある。

10 月 1 日は「国際コーヒーの日」であり、コーヒーを楽しみながら、コーヒー生産国のピッキングや生豆精製など関連の労働者を含むサプライヤーを考えてみてはどうだろうか。

蛇足だが、本年の NHK の大河ドラマと朝ドラは観ていてあきない。脚本家が優れているのであろう。今日的課題や古代の人事などをうまく織り込み飽きさせない。人気あるタレントでなく、シナリオである。コーヒーであればブルマンやコナなどの有名ブランドでなく、産地名は知られていないが、飲んで美味しいと感じたコーヒーだと思う。

（9 月 5 日記）